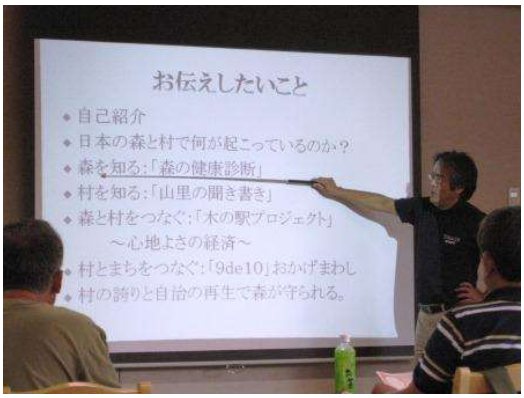
実践活動の勧め

素人が変える森づくり村づくり

日時：平成２４年９月９日（日）　１３：００～１５：００
講師：丹羽　健司（矢作川水系森林ボランティア協議会代表）

概況



森と村の視点から持続可能な社会を目指す地域と暮らしづくりがテーマでありました。基礎講座を学び、受講生は活動のあり方、課題、方法等を話し合いました。これから実践にあたってどのように進めるか以下の実践活動の紹介がありました。

1.鳥取県智頭町の取組み

智頭町では 2010 年 10 月、「軽トラとチェンソーで晩酌！」を合い言葉に木の宿場プロジェクトが始まりました。小規模兼業林家や林業に従事したことのない方でも気軽に参加できるシステム。軽トラでも持ち出せる50センチ～2メートルぐらいの林地に放置された残材や、間伐材を、1トン当たり 6,000 円の通貨価値（杉小判）で買い取ります。実勢価格との差額 3000 円のうち 2000 円を町が、残り 1000 円を NPO 法人「加露おやじの会」の「組手什」（間伐材を用いた組み立て式間仕切り・収納網キット）の売上や寄付でまかなう仕組み。

このプロジェクトを通して、今まで林地に放置されてきた間伐材を持ち出し、山林整備が進むこと、また1トン当たり 6,000 円の地域通過を発行し流通させることで地域経済が元気を取り戻すことが期待できます。

2.森の健康診断の取組み

森の健康診断は、誰も手をつけていなかった人工林の状況を調べるために市民と研究者が一緒に調査するボランティア活動。調査範囲を地図上でメッシュに切り、その交点の人工林を手分けして調べます。研究者は集まったデータを分析。研究結果

を報告書にまとめ、報告会で発表します。森の健康診断の行事の参加者は、自分の調査がどのように生かされたかを知ることができます。また、数年間継続して行うことで、調査方法も改良され研究が進みます。